

日に日に秋めく空と空気。夏の日差しとは違う眩い光が私たちを包んでくれるようです。今年は例年行っている行事の多くが中止となってしまいましたが、当財団のYouTubeチャンネルも作成しましたので、新たな文化の楽しみ方としてぜひご覧になってみてくださいね。文化の秋、皆様がどうか健康で過ごされますように。

豊橋文化祭開会式典を開催しました。

今年豊橋文化賞に長唄団体「かおり会」代表の松島庄文香さん、豊橋文化奨励賞に作曲家の鈴木直己さんが選ばれました。

令和2年9月26日(土)、豊橋文化祭開会式典が市民文化会館ホールにて開催されました。オープニングは、日本壮心流より今年2月に全国優勝したチームによる「一の谷懐古」と、宗家で昨年豊橋文化奨励賞を受賞した入倉昭山さんによる新作「新型コロナとの長期戦」の2題で幕開け。式典では、豊橋市副市長、当財団理事長の挨拶の後、豊橋文化賞・文化奨励賞をはじめとする各賞の表彰が行われ、その後、議長より祝辞が述べられました。

また今年の記念公演では、豊橋交響楽団楽団員によるアンサンブルコンサートを行っていただきました。豊橋交響楽団も今年定期演奏会を中止するなど、日々の練習も含め活動に大きな影響が出ている中、木管五重奏、クラリネット四重奏、弦楽合奏の3グループにご出演いただき、親しみやすい楽曲を中心に来場者の方々にも久しぶりのコンサートを楽しんでいただくことができました。



受賞者に聞く

豊橋文化賞

松島庄文香さん(長唄団体「かおり会」代表)

【受賞理由】

長唄団体「かおり会」代表として、七十余年にわたり長唄の技芸の研鑽にひたむきに取り組んでこられ、とりわけ優れた技巧に支えられた豊かな三味線の音色は人々を魅了するとともに、多くの後進の模範となってきました。また、豊橋長唄協会の役員としても、長唄の普及発展に力を尽くし、地域の伝統文化の振興に多大な貢献をされました。

●三味線を始めたきっかけと、今までの経緯をお聞かせください。
私は昭和3年、戦前生まれの92歳です。生まれも育ちも豊橋で8歳の頃に三味線を習い始めました。その前に日本舞踊を習っていたのですが、それは親の意思でした。日本舞踊を習う中で三味線に親しみ、どうしても三味線を習いたくなかったので親に頼み込みました。今でもついでこの間のように、手をついてお願いしたことを覚えています。当時は日本舞踊やお茶、お茶などを習うのが当たり前で、三味線も当時は町内に1人は先生がいました。私は戦時中も三味線を続け、女学校から海軍工廠へ行き、空襲にも遭いましたが無事生き残り、戦後すぐに自分の会を作りました。当時は娯楽も少なく、子どもはお祭りで踊ることが何よりの楽しみだったので、たくさん子どもが習いに来てくれました。教えるのにも夢中でしたし、自分の技術を磨くにも一生懸命でした。
戦前の少しのんびりした時代があり、戦中戦後と大変な時代もありましたが、思いがけず長生きできて、今回このような賞をいただき、なんだか得したような気分がします。

●お弟子さんにはどのようなことを大切に指導をされていますか？
思うように弾けない、唄えないという時には初歩的なことを確認します。パチや指の使い方など、うさがるけれど実際に手を添えて教えます。

●三味線の魅力はどんなところだと思いますか？
「好き」の一言ですね。三味線は、太棹、中棹、細棹とあり長唄三味線は細棹です。古典では、端唄、小唄、長唄など様々なジャンルがありますが、練習曲のようなものがなくて大変で、自分で作っている人もいました。でも、私は楽器を触るのが好きだったこともあり、長く続けてこられたのは、やはり好きだったからに尽きるのだと思います。あまりに三味線に深く馴染んできたので、なかなか外から三味線のことを見られなくなりました(笑)。もう本当に自分の一部という感じです。三味線は一生お稽古なので、「まだ上手になりたい」という欲があります(笑)。テレビも昔と今で面白く感じるところが違ってきましたが、同じように、三味線のお稽古でも分からないところが分かってきたり、感じ方が違ってくるような瞬間がたくさんあります。とにかく一生つき合える好きなことに出会えて本当によかったと感じています。

盛大に開催する予定であった第50回記念長唄演奏会は、新型コロナウイルスのため来年に延期となってしまいました。しかし、まだまだ元気な様子なので来年こそぜひ重鎮として舞台上で姿を拝見したいものです。お話を伺う中で、好きな事を見つけ長く続けることの幸せが自然と伝わってくるのが印象的でした。この度は、誠にありがとうございました。

豊橋文化奨励賞

鈴木直己さん(作曲家)

【受賞理由】

長年にわたり多彩な作曲活動を行い、その豊かな音楽は感情を刺激し情景をありありと想起させ、人々に感動を与え、ともに高く評価されています。また市民講座の講師や美術博物館、市民館でのコンサートなど、地域に根差した音楽普及活動にも意欲的に取り組んでおり、地域の音楽文化振興に大きく貢献しており、今後の更なる活躍が期待されます。

●作曲家になるまでの経緯をお聞かせください。
小学校の6年間ピアノを習っていて、羽田中学校のオーケストラ部でヴァイオリンを担当し、高校まで豊橋交響楽団に所属していました。高校ではバンド活動に打ち込み、音大に行きたい気持ちもありましたが、語学も好きだったので東京外国語大学へ進学しました。大学では軽音楽部、ジャズ研究会、オーケストラ部で活動を掛け持ち。大学時代に色々なジャンルの曲に触れたことは今でも役に立っています。小さな頃から「いつかは音楽の道で」とどこかに秘めた想いもあり、大学に入ってから作曲を始めました。
就職後もデモテープを送るなど音楽活動を続け、大学を卒業して10年目、「これでダメだったら諦めよう」と思った時にテレビ音楽制作している会社から声がかかって道が開けました。それから少しずつ仕事の幅が広がり、40歳手前で思い切って「音楽の道のみで」と決断しました。

●現在のご活動についてお聞かせください。
作曲活動については、テレビ番組への提供／オーケストラや吹奏楽の作曲と半々くらいです。作曲活動のほかに、10数年前から「東陽ふれあい音楽会」に出演させて頂いたり、「市民大学ドラム」の講師を務めさせて頂いていただいています。
作曲は、いわゆる「下りてくる」みたいなことは少ないですね。苦行だと感じることもあります。作家と同じでメロに迫られることが多いです(笑)。私は、作曲については独学なので書物や過去の作曲家の譜面から学ぶしかありません。ジョン・ウィリアムズや武満徹、池辺晋一郎先生が特に尊敬する作曲家ですが、パッサロも大人になってから楽譜を読み解くようになり、神々しいまでの形式美に大きな影響を受けています。

●作曲家としては依頼があってこそその仕事なので、どれだけ寄り添って応えられか、満足していただけるか毎回がオーディションのようなものです。そうは言いつつ、画家が作品にサインを入れるように、自分の音楽として音の中にそっとサインを忍ばせるようにしています(笑)。

●今後の抱負をお聞かせください。
より多くの方に音楽の魅力を伝えたいですね。作曲家という立場で「作られている仕組み」—例えば「こういう気持ちだからこの楽器を使った」ということを説明してから聴いてもらったら、曲の聴き方が変わってくるからです。それから、壮大な夢ですが日本の歴史・豊橋の歴史をテーマにオペラを1本でいいので作ってみたいです。

お話は鈴木さんの仕事場で伺いました。音楽関係の書物が多く並びピアノが2台と、当たり前ですがプロの仕事場の雰囲気少し緊張しました。東京でプロとして作曲活動を続けられる道もありましたが、ご事情により豊橋へ戻ってこられました。この縁を大切に、引き続き豊橋でもご活躍を期待したいです。

「繋がる」

洲淵 智子
(中部短歌会 同人)

本欄に昭和50年刊の豊橋歌人合同歌集(豊橋文化協会発行)があります。母の遺品であるこの歌集のあとがきによれば、豊橋の合同歌集の創刊は「類題三河歌集」(慶応2年発行)で、その50年後に「類題三河歌集」(昭和4年発行)と続き、これは第3号であるらしい。この第3号の参加者は何と343名もの方々です。素晴らしい歴史を知りました。

母は豊橋文化協会(現豊橋文化振興財団)主催の短歌初心者講座をきっかけに短歌を始めました。運良くこの第3号に参加できたことは、母の人生の中でもきつと特筆すべき出来事の一つだったに違いありません。

一方運命の糸に導かれるように、私は知人に誘われて「紫苑」(初心者講座から誕生した短歌会)の歌会に参加しました。昭和55年の事です。主宰の大竹毅先生は「日本人は皆生まれながらに韻律を備え持っている。思うままに詠えばよい」と教えて下さいました。そしてお言葉通り、自由に表現することを許して下さいました。今日まで短歌を続けてこられたのは先生のお言葉のお陰だと思っ

ております。

思い返せば入会した翌年(昭和56年)、文化協会と教育委員会共催の「市民お月見大会」に初挑戦しました。その時の歌

出ぬ月を待ちわびてをり吾子たちは
闇に向かひてしやぼん玉とばす

この歌が思いがけず秀逸に入賞したのです。正にジギナーズラックでした。表彰後、選者の諸先生方に温かいご批評を頂きました。そのお言葉が有難くて、嬉しくて、その後も毎年参加させて頂いたことを思い出します。

短歌を始めて20数年が経った頃、短歌委員にご推薦頂き、「お月見会」の選者をさせて頂くことになりました。先輩選者から頂いたご恩をお返しできる機会に恵まれたことは、有難くも幸せな巡り合わせだったと思います。この「リレーエッセイ」のように繋がっていたのですね。

繋がると言えば、コロナの影響で通常の歌会が開けなくなった時期がありました。所属する短歌結社ではその時期、インターネットによるサイバー歌会を敢行しました。選歌をし、歌評を書き込み、いつも以上に盛り上がりました。緊急事態宣言下においても、歩みを止めまいと工夫・企画された歌会は、ふさがちだった気分を吹き飛ばしてくれました。繋がれることは心強く、楽しく、温かいということを実感しました。

文化団体紹介

Vol.31

人形芝居ぶんぶく

コンパクトゆえの表現の広さ、深さ、おもしろさが人形芝居の魅力です!

今回は「人形芝居ぶんぶく」を主宰する幾田美恵子さんのところにおじゃましてきました。幾田さんは、小学校の学芸会で芝居の面白さを知り、高校では演劇部へ所属、卒業後も会社勤めを続けながらアマチュア劇団「じゃんだらりん」で演劇活動を続けてこられました。平成元年に以前から親交のあったプロの人形劇団「ばんび」に入団し、約30年間「ばんび」で活動されてきましたが、代表者の高齢化などを理由に解散してしまっただけで、平成29年4月におひとり「人形芝居ぶんぶく」を立ち上げたそうです。

『人形芝居ぶんぶく』では毎年新作を作っており、完全オリジナルのもの、日本の昔話をアレンジしたものがあります。話の中にも含まれる優しさや戒め、人間として大切なことを伝えるようにしています。絵を描くのもモノを作るのも好きなので基本的には舞台・人形・脚本を自分で制作しますが楽器はダメなので…音楽は台本を送って新曲を作ってもらいます。人形については、同じキャラクターでも、別の服を着た人形、大きさの違う人形…と何体もあるんです。デザイン画を描いて発泡スチロールを削って顔の色を付けて髪を付けて…という作業をして人形が完成します」と人形芝居をどのように作っているかを教えてくださいました。

幾田さんは市内の保育園や幼稚園、図書館、児童館などで活動しているのはもちろん、全国様々な場所で公演を行っていらっしゃるようで、10月には香川と栃木で公演を行う予定。今年は無観客のライブ配信もあるそうです。「毎年福岡に

行っていますが、神戸まで車で行って、そこからフェリーに乗るんです。」とパワー溢れる幾田さん。「声をかけていただければどこでも行きますよ。ただ、体調管理には気を付けています。特に喉のケアが大切ですね。一人で声色を変えているような役をこなすので『声優ですか?』と聞かれることもあるんですよ。」と笑顔で話されていました。

「人形芝居の魅力は、人間の芝居とは違うということです。例えば、空を飛んだり、水や土の中に入ったり、大きな化け物が出てきたり…ということが瞬時にできる。コンパクトゆえの表現の広さ、深さ、おもしろさがあり、様々な世界観を自由に表現できます。人数が多ければその幅も広がります。昔はテレビでも人形劇が多く放送されていましたが、人形劇は人形、声優、舞台、音楽などいろいろとお金がかかるのでかなり少なくなってしまいました。東京や大阪、名古屋にも大きな人形劇団がありますが演じる人の高齢化が進んでいます。人形芝居がどのようなものなのか、楽しさを広く知ってもらいたいですね。今は大人向けに落語を元にした人形芝居も作っているんですよ。」と人形芝居の魅力がたくさん語っていただきました。

子どもの頃に観た人形劇のワクワク感は今でもありありと思い出せる人も多いのではないのでしょうか? 「人形芝居ぶんぶく」さんは、豊橋市を拠点とするプロの人形劇団です。市民文化会館などで自主公演されることもあります。公演情報はホームページからご確認ください。https://bunbuku.biz/



豊橋文協チャンネルを作りました

コロナ禍で様々なものがオンライン化されています。豊橋文化振興財団でも「豊橋文協チャンネル」と称して、YouTube上にチャンネルを作りました。よろしければぜひご覧ください。



現在、下記の文化団体さんにご協力いただき、演奏などを収録して配信しています。収録希望団体も募集しています。希望がありましたら、ぜひ事務局までお問合せください。

- 峰と海の会 杉浦充さん(箏曲)
- 豊橋落語天狗連(落語)
- 錦心流琵琶全国一水会豊橋支部支部長 村田青水さん(琵琶)
- 津軽三味線 雅會(津軽三味線)



11月

- 3日(火)祝** 第46回豊橋音楽連盟コンサート
時間●第1部:13時開演(12時30分開場) 第2部:15時30分開演(15時開場)
場所●豊橋市民文化会館ホール 入場料●無料
内容●豊橋音楽連盟生徒によるコンサートです。
※第1部、第2部は来場者の入れ替え制とさせていただきます。
- 8日(日)** 西村能舞台稽古 [生徒随時募集中]
時間●14時～16時 場所●西村能舞台(豊橋市上伝馬町)
月謝●7,000円/月1回、10,000円/月2回 お問合せ●080-1063-3855
- 15日(日)** 日曜短歌会
時間●13時～ 場所●豊橋市民文化会館第7会議室
- 18日(水)** 水曜短歌会
時間●13時～ 場所●豊橋市民文化会館第7会議室
- 24日(火)** 地区市民総合展……………29日(日)まで
時間●9時～17時(最終日は15時まで) 場所●豊橋市民文化会館展示室 入場料●無料
内容●校区文化協会などから選抜された書道・絵画などの展示です。
- 28日(土)** 西村能舞台稽古 [生徒随時募集中]
時間●14時～16時 場所●西村能舞台(豊橋市上伝馬町)
月謝●7,000円/月1回、10,000円/月2回 お問合せ●080-1063-3855
- 29日(日)** 地区市民総合芸術祭
時間●13時開演(12時30分開場)(予定) 場所●豊橋市民文化会館ホール 入場料●無料
内容●校区文化協会により選抜されたメンバーによる音楽や舞踊のステージです。

12月

- 4日(金)** 高文連東三河支部「高校生の写真展」……………6日(日)まで
時間●10時～17時 場所●豊橋市民文化会館展示室 入場料●無料
内容●東三河の高等学校14校参加、写真部在籍生徒による180点ほどの新鮮で見ごたえのある写真展です。
- 6日(日)** 豊橋交響楽団アンサンブルコンサート
時間●14時開演(13時30分開場) 場所●ライフポートとよはしコンサートホール
入場料●無料(要整理券)
- 15日(火)** 市民展(絵画・彫刻・デザイン)……………20日(日)まで
時間●9時～17時(最終日は16時まで) 場所●豊橋市美術館 入場料●無料
内容●東三河を対象とした美術公募展。日本画・洋画・彫刻・立体造形・デザインの展示。
- 16日(水)** 水曜短歌会
時間●13時～ 場所●豊橋市民文化会館第7会議室
- 20日(日)** 日曜短歌会
時間●13時～ 場所●豊橋市民文化会館第7会議室
令和2年度(創流114年)日本壮心流全国剣詩舞道大会
時間●10時～ 場所●ライフポートとよはしコンサートホール 入場料●無料
内容●壮心流館員の剣詩舞の発表など
- 22日(火)** 西村能舞台稽古 [生徒随時募集中]
時間●14時～16時 場所●西村能舞台(豊橋市上伝馬町)
月謝●7,000円/月1回、10,000円/月2回 お問合せ●080-1063-3855
- 27日(日)** 市民展(写真・書道)……………27日(日)まで
時間●9時～17時(最終日は16時まで) 場所●豊橋市美術館 入場料●無料
内容●東三河を対象とした美術公募展。写真・書道の展示。
- 27日(日)** 飛雲会10周年
時間●10時～17時 場所●名古屋能楽堂 入場料●無料
内容●能楽師、内藤飛能が主宰する飛雲会の10周年。各教室の生徒も参加し、日頃の稽古の成果を披露します。

豊橋の文化活動—アーカイブス③

～豊橋文化賞・文化奨励賞～

豊橋文化振興財団の前身である豊橋文化協会が創設から満5年を経過した昭和25年、文化の日(11月3日)を記念して、懸案になっていた〈文化賞〉を制定し、実施することになりました。

その要綱には、目的として「豊橋文化協会は豊橋の文化の興隆を図るため毎年11月3日の文化の日を期して、すぐれた文化活動を行ったものに豊橋文化協会文化賞を贈り表彰する、文化賞は、賞状及び記念品とする」、詮衡(選考)として「文化賞授賞者の詮衡は、豊橋市在住の学識経験者のなかより豊橋文化協会会長が委嘱した文化賞詮衡委員会に於て行う」、対象として「文化賞の対象は毎年前年の10月より現年の9月末日までにおいて、学術・芸術・その他文化一般に対し業績顕著な豊橋市在住又は所在の個人、若しくは団体とする」とあります。

記念すべき(第1回文化賞)の受賞者は、大口喜六氏でした。

昭和27年10月5日発行「豊橋文化」通巻第215号には、理想の〈文化賞〉授賞者について語った市川寛氏(詮衡委員・豊橋市立図書館長)のこんな文があります。

「前2回とも詮衡委員だけで推薦していたが、こんどは文協会員全員によって推薦されることになったので視野が広くなり、いい結果をみるであろうと期待している。〈文化賞〉といえはなかなか非常に難しく、一般にはとりつきがたいように感じる人がすくなくないと思うが、豊橋文化協会の意図する〈文化賞〉該当者は、そういうものではない。一つの実例をあげてみると、ある小さな街に美術展が催されたとき、全く無学文盲のような荷馬車挽きの人が受付へ現れて、百円札一枚ポンと出して、展覧会の費用につかなくて下さいと申しでた。受付にいた画かきさんが面喰らって「あなたは絵がお好きなのですか」とたずねたところ、その人は「いや、ワシは御覧の通り毎日馬のケツを追い廻しているケチな奴で、絵のよきなんか皆目判らず、また展覧会を見にくる暇もありませんが、こうした催しがあると、この街がなんだかあかるくなったようで、ワシはそれがうれしいですよ」と、笑ってたち去っていったそうだ。その画かきさんも、この言葉にグーと何かあついものがコミ上げてきて、なんともいえないが、本当の文化人というのは、この荷馬車挽きのような人ではないだろうか。自分のところの家は、電気やガスは勿論水洗便所から電気冷蔵庫などと文化の粋を集めた生活をしていて、ひとかどの文化人のように見えるが、さて、社会公共のことになると、舌をだすのもいやだという人が少なくない。文化生活をしていながら、文化の真髄を理解していない哀れな人であると思う。豊橋文化協会が、〈文化賞〉の該当者として探し廻っているのは、この荷馬車挽きのような真の文化人を豊橋は勿論東三河全域に亘って求めているのである。豊橋文協の意のあるところを諒として、ドシドシ御推薦していただきたく、私からも切にお願い申し上げる。」

また、昭和31年10月28日発行「豊橋文化」通巻第423号で浅井秀雄氏は、「〈文化賞〉というものを、豊橋文化協会がつくるか、つくらないかという案がでた当時、協会理事の間にもいろいろ議論があったものである。即ち「かようなものは、市がやるべきもので、在野団体が取りあげるべきものではない」とか、「いや、こういうものこそ、極めて、自由に、率直にできる立場にある在野団体こそやるべきだ」とか、「それにしても、有力な団体ならば兎に角、吹けば飛ぶような文協が…」などと、異論百出して容易にきまらなかったのであるが、「文協が独断的に走らず、豊橋各界代表のかたがたを詮衡委員にお願いして選びだされたかたに対して、豊橋文化協会が、心から感謝の意を表わすことは文協の仕事としてたいへん意義のあることではないか」と、一決して始まったのである。(中略) …詮衡委員のかたがたによって選ばれた立派なかたがたに、「ありがとう」と、謝意を表し、今後の御多幸をお祈り申し上げますのは、豊橋文化協会にとってこの上ない光栄であり、よろこびであると、私は深く信じている。」と述べています。



一方、〈豊橋文化奨励賞〉の設立は昭和35年で、財団法人神野報恩会のご厚意で基金の一部を豊橋地方の文化の発展に尽されている団体又は個人に贈るよう、その選定を豊橋文化協会に任されるので、初の〈豊橋文化奨励賞〉は、三河生物同好会(世話係・恒川敏雄氏)が、受賞されました。

昭和54年の記念すべき節目の〈第30回豊橋文化賞〉は、昭和21年に「一坪の花園を」の理想を掲げて豊橋文化協会を創設し、戦後豊橋の新しい文化運動の最初の基盤をつくり、以来33年間会長として陣頭指揮に当たった神野太郎氏が受賞しています。

※写真は、病氣療養中の日本画家・中村正義氏(左)に〈第4回豊橋文化賞〉の授賞を伝える神野太郎会長



今号の一点

社本善幸 「八角柱」

素材:108個のトコ箱、塗料
サイズ:H1800 W1300 D1300 (mm)

Sion's gardenでのLAMPコラボレーションにおける大橋夏実氏のインスタレーションと小柳津胤氏の説話(牟呂松原用水路の開闢期に8人の人柱が立てられたという伝承)からの発想・展開。

文化短信

▼豊橋市民俳句会 第632回句会

- 暮洗う父へ手向けの田植唄 彦坂艶子
- 黒き雨降らせてならぬ島鳥忌 高橋良子
- 芒原ひかる日のいる風の色 佐藤英子
- 芒野に岩かと思ふ阿蘇の牛 山中たけし
- 荒梅雨の北の大地を打叩く 大河美智子
- 伝説の池を抱きて芒原 林 春美
- 麓へつつなぐ嶺の暮参道 河合澄子
- 墓参り杖を頼りの八十路かな 白井美智子
- 掃苔や守る娘は嫁ぎをりにけり 篠田和代
- 川縁のこが栖か花芒 藤田源一

▼豊橋文化短歌会

- 七月水曜歌会
人の来ずガラス戸鳴らす雨音を聞きてさびしい長き日暮れぬ 金澤もとゑ
- コロナにて三月(みつき)あけたる参詣に老僧の説経本堂に響く 中島タエ子
- 御利益のない念仏を聞くような横文字だらけのコロナ会見 夏目伊代子
- どの草にも盛衰ありてほととぎすきんみずひきに水引き被う 河合益代
- 風蘭の夜を通して馥郁と香る白花木の下面に 内藤よし胡

七月日曜歌会

- 道端の花を愛するは女の子六人家族の一団と遭う 岩瀬美子
- 臆病が自肅解除に失せゆけり死者たちのこゑ遠くなりゆく 丹羽智子
- 人生で読まずに終る筈の本カミュの『ペスト』を店頭で買ふ 池田あつ子
- 木洩れ日を浴びつつスケボー乗り回す風になりたい少年二人 岡田米子
- コロナウイルス未曾有の有事残さねばならぬ詠はねばならぬ 今を生きる 岡田宏子

八月の歌会中止
新型コロナウイルスが、自らが生き残るために人類に寄生しようとして活動しています。

人類にとっては危険極まりない生物ですが、人類よりはるか昔から地球上に存在していた生物です。変化すると言う厄介な生物でもありません。今回の事態は、地球と地球を取り巻く自然界が、人類に警告を与えているような気がします。「人類よ、自然界においては、もつと謙虚であれ。共生しようではないか。」と訴えているようです。

▼豊橋番傘川柳会

- 打たれても節を曲げない釘の意地 須崎東山
- 親からはこれが最後と釘さされ 佐藤文児
- 錆びた釘もう怨念は抜けている 寺部水川
- 内緒話あなただけねと釘さされ 波多野律子
- 交差点クシャミひとつで釘付けに 山口タカシ
- 釘じゃないポンポン頭叩くなよ 池谷英子
- 合コンはコロナで駄目と釘をさす 郡山弘子
- すべり込みセーフが板に付く娘 おたやかな日日に感謝の水を飲む 本多雅子
- 失言も水に流せるやさしさを 戸沢はたる
- 父の声母の声する盂蘭盆会 青嶋由紀美
- 錯覚も時には招く好い結果 佐藤恭子
- 私にも聞こえたムンク叫ぶ声 来本芳子
- 錯覚のおかげか今日が無事に暮れ 鈴木順子